

ごみに対する意識向上を

■異臭騒ぎ
今年2月、市のごみ処理施設「環境プラザ」で異臭騒ぎがあり、建物内で作業をしていた職員が体調不良をうったえ、そのうち数人が救急搬送されました。幸いにも全員症状は軽く、大事にいたることはありませんでした。

一般の方々から持ち込まれた可燃ごみや粗大ごみの分別作業中に、目の痛みなどを引き起こすかなり強力な気体が発生し、先のような事態となりました。原因となった気体はすぐに拡散し、ガスの検出や酸素濃度の異常は確認できませんでしたが、その後、ごみの中からふたの空いた農薬の容器が見つかり、その成分からおよそ今回の異臭騒ぎの原因はその農薬だろうということになりました。

■それ以外にも
令和5年5月、同じく環境プラザで水素爆発による火災が発生しました。焼却灰の中にアルミごみが入りこみ、その焼却灰を冷やすためにかけた水とアルミごみが化学反応を起こし、水素爆発が起き、火災が発生したのです。原因は一般家庭の収集ゴミの中に相当量のアルミが捨てられていたためでした。

幸いなことにこの事故でもけが人は出ませんでした。ただ施設の一部がこわれ、事故調査と修繕のために一般ごみの受け入れを一時ストップしなければなりません。

さらに遡ること令和5年3月、象潟にある一般廃棄物処分場で火災が起きまし

た。本来、埋め立て処分場に可燃物は捨てられないのですが、そこに綿素材の布製品が捨てられていたために、いわゆる自然発火による火災が発生したのです。

■わかってもらいたいこと
ごみの分別については、毎年のゴミ出しカレンダーの全戸配布とイラスト入の分類表の市HP掲載などにより、だれでも確認できるようになっています。また、環境プラザ等の現場でも職員等がごみを持ちこんだ人たちにきちんとごみの分別をするように注意喚起したりする場合があります。その目的は「安全」のためです。

もちろん、ほとんどの方はきちんとルールを守ってくれています。ただ、「ちょっとくらいなら平気だろう」といった安易な気持ちに引張られてしまっている人がいるということです。

たまたま今回の事故や火災は大きなものにならずに済みましたが、もしかしたらもしかしていたかもしれない。やはり、今回の事故および火災をもって、私たち一人ひとりがもう一度考えて行動する機会としなければならぬと強く感じるところです。

■ごみの減量化にむけて
いま市では令和4年度に改定した「一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）」にもとづいてごみの減量化に取り組んでいます。

にかほ市におけるごみの排出状況は正直好ましいものではありません。昨年度の調査でも、一人一日当たりのゴミの排

出量は全国平均、県平均を大きく上回り、県内でもワーストに近い状況です。しかも令和3年以降、ごみの排出量はますます増えており、ごみの減量目標はいまのままでは達成できない状況です。脱炭素社会の実現が叫ばれるなか、にかほ市にとって、ごみの減量化は大きな課題といえます。

ごみの量が減らないのは、ごみを捨てやすいからなどといった、決してそんな安直な話ではありません。むしろ、ごみとして捨てるしかない状況になっていると捉えなければならぬと思っています。今回の事故や火災についても分別の徹底によるごみの減量化がきちんと行われていけば防げたと思います。

使いづらいいわれている燃えるごみ袋についても、形やサイズ、素材を使いやすいものに変更し、市民サービスの改善をはかりながら、ごみ分別の徹底やリサイクル率の向上、一人ひとりのコスト負担のあり方などを同時に検討していかなければならぬと考えています。

まずはごみに対する意識を向上させていくことです。それが事故や火災を防ぐための近道なのだと思います。



にかほ市長
市川雄次

仁賀保高等学校
NikaHomeroom
season3

ようこそセンパイ

フチ

放課後対談!

今号より始まる「ようこそセンパイ 放課後フチ対談!」。仁賀保高校の卒業生と現役の生徒が対談し、仁賀保高校の魅力を伝えていきます。第1回目は超神ネイガーの活動を行っている(株)正義の味方のスーツアクター佐藤史崇さんを迎え、現生徒会の藤原咲太郎会長との対談の様子をお伝えします。

対談相手
仁賀保高校
生徒会長
藤原 咲太郎

▲仁賀保高校の恒例行事鳥海登山とブナ植樹の様子

▲当時の佐藤さん

第1回目ゲスト
**(株)正義の味方
佐藤 史崇さん**
平成13年卒業

23年後

— 当時の仁賀保高校の思い出 —
佐 自分にとって仁賀保高校の思い出といえはやはり野球です。3年間みっちり先輩後輩と一緒に目標に向かって頑張っていました。あと、当時は1学年で6クラスあって、やんちゃな人から、面白い人から本当に個性豊かな人が集まる元気で楽しい学校だった印象があります。

藤 そうだったんですね。今は1学年3クラスです。人数の多い学校への憧れはありますね。

佐 でも、少人数には少人数の魅力があると思う。その分皆の事を覚えられるし、団結力も上がると思う。学年全体の人数は多かったけど、実は当時の野球部も部員は少なく、誰か一人でも欠けたら試合ができない状況で。だからこそ先輩後輩の垣根無く皆で一致団結できた。これは大規模校では経験できないことだったと思います。

— 仁賀保高校の魅力 —
佐 自分が考える仁賀保高校の魅力はやはり地域に根差した行事、鳥海登山とかブナの植樹などですね。今もやっているの？

藤 はい、やっています。ただ、そのことで少し悩んでいることがあって：鳥海登山は現在校内だけの行事なので、そこに地域の人たちも参加できるようにしたいと思っています。どのように呼びかけたらいかがか分からなくて。

佐 そうか：まずは積極的に先生に相談してみるべきだと思う。あと、生徒や外部の人の声を集めること。例えば意見箱を設置したり、今ならSNSなどを使って声を集めて、先生に届けて、そこから検討してみてもどうかかな。積極的に周りを巻き込んでいこう!

— 仁賀保高校へのメッセージ —
佐 自分は仁賀保高校での生活、特に部活をとおして、仲間を大切にすること、周りへの感謝の気持ちを大切にすることを学んだと思っています。この学びは今ネイガーのセリフやメッセージを考えるときにも役立っています。今の仕事は自分一人でやっているわけではない、皆でやっている。だからこそここまで続けることができたと思います。あとは母校に誇りを持ってもらいたい。自分たちの時は情報メディア科がなかった。今はネイガーを使用した啓発ポスター制作とかeスポーツ部がある。これは本当にすごいと思う。誇りに思っていると思う。こうした気持ちを大切に学校生活を送ってもらいたい。そしてその気持ちを持ってそのまま大人になってもらいたいですね。

藤 ありがとうございます。佐藤さんとの対談をとおして改めて仁賀保高校の特色や魅力に気づけた気がします。また、今ある環境が当たり前だと思わずに感謝の気持ちを持って過ごしていきたいと思っています。

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧いただけます。

